

令和 6 年度 県立守谷高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 知(確かな学力)、徳(豊かな心)、体(健やかな体)のバランスのとれた「生きる力」を育み、心身共に健康で、地域や社会に貢献しようとする人間を育成できる学校 (2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた進路実現ができる学校 (3) 保護者や地域社会との連携を深め、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	自らを律するとともに、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち、多様な他者と協働して、地域や社会に貢献しようとする人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた、きめ細かなキャリア教育や多彩な特別活動を通して、大学進学から就職までの進路希望実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	将来を見据えて、主体的に行動し、自身の可能性を切り拓こうと学習や特別活動に積極的に取り組む生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
授業改善 ICT 機器を活用した授業改善の一環として、相互授業参観を実施しているが、他教科の授業を見て活用の幅を広げるまでには至らない。 新課程での観点別評価も 2 年間実施して形にはなっているが、評価規準の見直しと工夫の必要がある。	授業改善を主とした学力の向上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT 機器を活用した授業の研修会を通じて ICT 活用指導力を高めるとともに、研究・実践を通して授業改革に努め、学校評価に係る生徒による授業評価の「授業満足度 (KPI)」の平均値 3.4 以上を目指す。	4
		② すべての教員が年 1 回以上授業を公開する授業研究会を通して、教師一人一人の授業力向上を図る。	4
		③ 新課程での観点別評価について研究を重ね、目標と指導と評価の一体化を図り、授業の工夫改善を行う。	4
基本的生活習慣の確立 遅刻・欠席が多い状況が続いている。遅刻指導を継続して行っているが、特定の生徒が遅刻・欠席を繰り返す傾向にあり、改善につがっていない。	生徒の希望や資質・適性に応じた進路実現	④ キャリアガイダンスを計画的、組織的、系統的に実施し、生徒の進路に対する意識の高揚を図る。	4
		⑤ 面談を通して生徒の希望及び資質・適性を的確に把握し、それらを踏まえた適切な進路指導により生徒の進路希望を支援する。	4
特別活動の活性化 昨年度は 3 年ぶりの文化祭を開催できた。生徒からの要望に応え、今年度から文化祭を毎年開催することにした。行事が続くことを避け、日程について見直しを行った。 部活動については、県の方針を遵守しながら、部活動改革をすすめている。	基本的生活習慣の確立	⑥ きめ細かな生活指導を通して、規範意識の高揚と公共の場におけるマナーの向上を図る。	4
		⑦ 規則正しい生活の習慣化を図り、学校全体での遅刻回数を昨年より 30%削減する。	5
		⑧ 薬物乱用防止や SNS 上でのトラブル、交通法規遵守に対する意識を高め、健康で安全な生活を送ろうとする意欲を高める。	4
特別活動・部活動の活性化	特別活動・部活動の活性化	⑨ ホームルーム活動、学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒を主役とした活動を充実させる。生徒会アンケートを通して、生徒の意見を反映させた活気のある学校をつくる。	5
		⑩ キャリアパスポートを活用することで、生徒自身が自らの学びの見通しをたて、事後に振り返ること	3
		⑪ 「茨城県部活動の運営方針」に定められた活動時間等を遵守し、部活動についての運営体制の見直しと意識改革を図る。	4

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった

別紙様式2 (高)

昨年度の課題と成果	重点項目	重点目標	達成状況
働き方改革 仕事の削減・効率化をすすめているが、昨年度の時間外在校時間や月平均 45 時間・80 時間超過者割合は、相変わらず県平均より高い水準にある。	校外への広報と連携の充実	⑫ HP の発信量を増やすとともに、Instagram や PTA 会報など様々なメディアを活用し、情報発信を活発化させ、本校の魅力の広報活動を強化する。	5
		⑬ 保護者との連携をさらに深めるとともに、地域の活動に積極的に参加したり、近隣小中学校との交流を進めたりすることによって、地域社会との連携の充実を図る。	4
	働き方改革	⑭ 質の高い授業や個に応じた学習指導を実現するために、学校や地域の実情を踏まえ、教師が担うべき業務を整理し、適正化を図る。	4
		⑮ ICT を活用し、仕事の削減・効率化に努める。	4

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る。	漢字力、語彙力を高める。	4	3.8 ・授業の相互参観を活性化して、授業をより良くしていけるようにする。 ・漢字検定の受験者数を増やしていく。
	主体的・対話的で深い学びの実現に努める。	様々な文章を読み、適切な言語活動の機会を設けることで、思考力・表現力の向上に努める。	4	
		多彩な教材を用いて、現代社会の複雑多様な言語生活への適応を図り、読解力の向上に努める。	4	
		ICT 機器等を用いて、様々な観点から情報を収集整理するスキルを身につける。	4	
生徒の実情に応じた授業の確立に努める。	相互授業参観や各種研修等で得た知識・スキルを教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。	3		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	基礎的な用語や政治・社会制度などを理解させ卒業後に役立つ学力を培う。	4	4.0 ・総合科目(問の立て方を身に着ける)と探究科目(自分で問いを立てられる力を身に着ける)のつながりを意識した指導法を研究する。 ・選択科目の平均点が科目によって大きく違う場合の対応策の検討。ABC の範囲を変更することは可能か。 ・教科全体として重複する内容を避け、3 年間で効率的な指導ができるようにする。
		生徒による授業評価を実施し、生徒の到達度を把握するとともに、個別指導につなげられる観点別評価の検討に努める。	4	
	主体的・対話的で深い学びを充実させる。	ICT を活用し、様々な事象に対して身近なものとして主体的に捉えさせる。	5	
		1 人 1 台のタブレット端末を活用した探究学習を推進する。	4	
		白地図やプリント・整理ノートなどを活用し、生徒同士の対話を取り入れながら理解度を深める。	4	
	社会的事象への関心と探究心を引き出す授業を展開する。	問題意識を明確にするための社会的事象との出会いの場を設定し、ニュース検定など資格取得や課題探究をさせる。	4	
社会問題に対して関心を持ち、解決の方法および自分の意見を確立できるように、身近な事象を取り入れるよう努める。		3		

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
数学	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じて、各単元の導入時に既習の基礎事項を復習し、新しく学習する単元へのスムーズな取り組みを促す。	4	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した学習活動の更なる充実(ワークの電子化も検討) 習熟度別授業(1年)の弊害(中間層の意欲の向上に繋がらないことなど)を鑑みて、来年度廃止の方向で検討中 	
		学習内容の定着のため反復練習に適した練習問題を準備し、なるべく多くの問題を解く機会を与え、生徒が各自の疑問点に気付くよう促し、問題解決の手助けをする。	5		
		小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な場合は復習の時間を設ける。	4		
	家庭学習習慣の定着に努める。	ワークノートを定期的に点検し、家庭学習の習慣が身につくように努める。	4		
	数学がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	積極的に授業を公開し、授業内容や方法について教科内で研究協議する。	4		
各種研修会に積極的に参加し、教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。		3			
理科	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	各種研修会や相互授業参観を通して、授業の改善を図る。	4	<ul style="list-style-type: none"> 科目や単元の特性に応じ、ICTの適切な活用に努める。 個別最適な学びの実現へ向け、授業改善に努める。 基礎科目の実験プリントを共有するなどして、観察・実験を定期的実施する。 	
		ICT機器を効果的に利活用し、学習の質を高める。	4		
		授業や学習プリント等を工夫し、個別最適な学びができるよう指導する。	4		
	科学的な思考力・表現力の育成を図る。	考察・表現することの苦手意識を改善するため、ワークシートに考察部分の方向性を示す。また、対話的な学びを促進するために、言語活動の工夫に努める。	4		
		科学的に探究する能力と態度を育成する。	自然の事物・現象について理解を深めるために、日常生活との関連を図る。		4
			安全かつ適切に観察・実験が実施できるよう工夫改善を図る。		4
	基礎的な観察・実験を実施し考察させる等、探究活動の充実に努める。	4			
保健体育	基礎体力の向上を図る。	体力テストを実施し、運動能力を把握する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用をし、授業改善に努める。 体力テストA+B群の割合を増加させる。 卒業後も運動に親しむ習慣の育成に努める。 	
		水泳・縄跳び・マラソンを必修とし、基礎体力を向上させる。	3		
	健康的な生活を明るく前向きに展開する。	自分自身の成長・発達をしっかりと受け止め、さまざまな課題に対処していく力をつける。	4		
		生活習慣病などに適切な配慮ができ、心身ともに豊かに過ごしていける力をつける。	4		
芸術(音楽)	音楽の基礎的知識を身につける。	学習プリントを利用して、楽語や形式を学習作品と結び付けながら具体的に理解できるよう工夫する。	4	<ul style="list-style-type: none"> 評価規準を見直し、より良い評価・学習指導を目指す。 ICTを活用した学習活動のさらなる充実。 	
	表現力の充実を図る。	実技試験や発表する機会を通して、表現することの楽しさや達成感を味わわせる。	4		
	鑑賞能力を高める。	音楽作品の聴き方と、感じたことを適切な言語で表現することができるよう工夫する。	4		

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
芸術（書道）	授業を充実させる。	さまざまな用具用材を使用した作品作りを通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。	4	3.6	・鑑賞の学習活動を充実させる。 ・書道Ⅰにおいて、内容をより整理し、創作活動を充実させる。
	表現力指導の充実を図る。	臨書と創作の指導に努め、自己を表現する力を身につけさせる。	4		
	鑑賞力指導の充実を図る。	さまざまな作品を鑑賞させ、説明事項や感想を書かせることによって、鑑賞力を高めるとともに書についての知識を身につけさせる。	3		
英語	基礎学力の定着及び向上を図る。	授業や学習プリント、課題等を工夫し、生徒が見通しをもち積極的に学習に取り組むことができるようにする。	4	3.9	・GTEC 検定で実力を測り、英検の受検につなげるという英語科の意図が英検受検率に反映されていない。 ・ALT のベース校となり積極的な活用が望まれる中、前年度と違い全クラス月 2 回の授業のペースに乗れていない。 3 観点での評価の基準確立とともに、通常の授業の中でいかに ALT を活用するか模索が必要である。
		小テストや月例テストを活用し、基礎学力の定着を図る。	5		
	主体的・対話的で深い学びの視点から 4 技能をバランスよく指導する。	ペアワーク、グループワークを通し、インプットおよびアウトプットを連動させ 4 技能統合型の指導をする。	4		
		電子黒板・タブレット等の ICT 機器を十分に活用し、実践的な英語力を育成する	4		
		ALT を活用することによって、英語でコミュニケーションを図る喜びを感じさせる。	3		
	各種検定試験や外部模試に対応した授業の充実を目指す。	進路を意識させ英検等に積極的に取り組ませる。	3		
		GTEC の結果を共有・分析し 3 年間を見通した指導を展開する。	4		
	教員授業改善を主とした指導力の向上を図る。	相互授業参観を通して教科内で情報を共有し、授業改善に努める。	4		
研修等への参加を促し、授業力を向上させる。		4			
情報	情報社会を支える情報技術の役割や仕組みを理解し情報社会の課題について考える。	基本的な情報リテラシーを身につける。	4	4	来年度も県指定教材「ライフイズテック」を使うかどうかで授業の仕方が変わる。 もし、県で予算が出ない場合、各生徒に副教材として購入するかどうか考えなければいけない。
		情報安全（法律や個人の責任など）を学ぶ。	4		
		ネットワークを適切に活用して、問題解決に必要なとされる事柄（問題の明確化、情報の収集、整理・分析、解決策の検討など）を体験的に学ぶ。	4		
家庭	家庭の基礎的・基本的な知識を身につけさせる。	学習ノートや独自に作成した学習プリントを使用し、実生活を振り返り、学んだことと結びつけながら具体的に理解できるよう指導する。	4	4.0	5月の連休、夏季休業、冬季休業を利用して家庭生活の見直し、改善につながる課題を出しているが、生徒によって取り組みの程度に大きく差がある。授業内容でより、自身の生活を意識させる内容を取りあげ、実践活動を充実させたい。
	家庭生活を向上させるために必要な基礎的・基本的な技術を身につけさせる。	実習時間を確保し、生活に必要な基礎的・基本的な技術の定着を図る。	4		
	生活について見直し、適切に判断し工夫創造する能力を身につけさせる。	5月の連休中に家庭クラブ週間を設け、家庭生活の見直しを図る。授業で学習したことを生かし、夏季休業中にホームプロジェクトを実施する。冬季休業中にも、5月と類似の課題を与え、家庭生活の見直しを、家族とコミュニケーションをとりながら実施する。	4		
	授業に意欲的に取り組むとともに実践的態度を身につけさせる。	定期的に課題を点検し、提出物の充実を図る。	4		

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務部	円滑な学校運営に努める。	各校務分掌・学年・教科との連携を密にし、円滑な学校行事の運営に努める。	4	4.0 ・成績管理システムの運用が、担当者の異動によりノウハウが引き継がれなかった。 ・業務に偏りがあり、時期的に忙しい先生のサポートが十分でなかった。
		統合型学校支援システムの管理・運営、PC管理、緊急メール配信など、旧情報管理部の業務を滞りなく実行する。	4	
	広報活動の充実。	夏・秋のオープンスクールを充実させるとともに、地域の進学相談会や中学校・塾訪問などを通して、中学生や保護者に積極的にPRする。	5	
		ホームページの発信量を増やすとともに、InstagramやPTA会報、学校パンフレットなどのさまざまなメディアを活用し、情報発信に努める。	4	
	基礎学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現のため、目標と指導と評価の一体化を図り、授業の工夫改善を行う。	3	
生徒指導部	遅刻、服装頭髪指導を徹底する。	週番体制を組んで毎月遅刻指導を実施する。	5	3.7 ・交通マナーを向上し、交通事故の減少と近隣住民の信頼を得る。 ・服装頭髪指導の基準を統一させる。
		始業式及び定期考査最終日に全校一斉の服装頭髪指導を行う。	4	
		マナーアップ講演(習)会を実施する。	4	
	交通マナー、安全意識の高揚を図る。	学年ごとに交通講話を実施する。	4	
		交通安全運動に積極的に参加するとともに、自転車・バイク通学者への指導を徹底する。	3	
	心の教育をする。	他人の考えや、気持ちを理解できるようにし、いじめのない学校作りを日ごろから授業やLHRを通して指導する。	3	
環境を整備する。	校舎内外の点検を進め、事故防止に努める。	3		
進路指導部	生徒一人一人の進路希望100%実現を図る。	進路と学年の連携を密にして情報の流れを円滑にし、生徒の現状を正確に把握するとともに、一人一人の興味関心や特性に応じた指導に心がける。	4	4.0 ・進路指導部員の数を増やす。(最低でも3年3名、他学年2名ずつ。) ・2学年のうちから看護医療系課外を実施する。
		計画的な進路行事を通して、進路に対する意識を高める。特に総合型選抜及び学校推薦型選抜の入試において安易な決定に流れないように丁寧な対応を心がける。また、「大学入学共通テスト」を見据えた指導の充実を図る。	4	
	進路意識、職業観を高める。	進路ガイダンス、進路LHRの充実と共に、総合的な探究の時間を活用し、主体的に進路学習に取り組みさせる。	4	
		上級学校・職場見学会を実施し進路に対して具体的イメージを形成する。	4	
		進路講演会、適性検査、面接指導を実施し、意識の向上を図り、生徒の進路実現を支援する。	4	
	学力の向上を図る。	平常課外、夏季課外において、大学入試のための基礎力を養う。	4	
		各種模擬試験、小論文模試を生徒の実情に合わせて的確に実施し、学力の向上に役立てる。	4	

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
学習指導部	生活習慣の確立	手帳「もりすけ」を活用し、自分の生活をマネジメントできる力を育成する。	4	【探究学習「もりたん」】 ・2年の分野別カテゴリーが多かったので、もう少しまとめられるとよい。 ・探究学習の流れを部内のみの共有にとどめず、学年内・学年間でも共有できるとよい。 ・外部人材「複業先生」は役に立った。 【月例テスト】 ・タブレット方式か紙方式かで検討する必要がある。 【相互授業参観】 ・前期の実施・参観は活発だったが、後期は実施しても参観者が少なかった。時期ややり方を工夫する必要がある。
		手帳「もりすけ」に学校生活の記録を残すことで日頃の生活を振り返ることを促す。Classiのポートフォリオ機能とも連携させる。	3	
	基礎学力の定着および向上	月例テストを企画し、全学年で実施する。	4	
		家庭学習の習慣化のため Classi 学習機能を活用する。外部模試「基礎力診断テスト」の結果を活用し、苦手分野を中心に学び直しをする。	3	
		長期休業中課題を企画、実施する。	4	
	教員の授業力向上の取組を推進	ICT 機器を取り入れた授業を実施するにあたり校内研修等を企画・実施し、授業の改善に努める。	4	
		教務部と連携し、授業の相互参観を通して、教員一人一人の授業力向上を図る。	4	
	資格検定の取得を奨励	英検・漢検・数検・ニュース検定などの資格を取得するために各学年や各教科と連携し、指導にあたる。	4	
		資格検定の必要性や重要性についての情報をこまめに発信し、生徒の意識づけに努める。	4	
総合的な探究の時間の立案・実施	学年と連携し探究学習「もりたんプロジェクト」の授業を設計し、実施する。	4		
保健厚生部	心身の健康に関する知識や能力を育て、健康な体をつくる。	健康状態の把握に努め、消毒、換気を促すなど適切な指導や援助を行い、疾病等の予防と管理を徹底する。	4	・生徒情報を学年と保健厚生部で共有し、長欠者や心に問題を抱える生徒が SC 利用しやすい環境づくりが必要である。 ・施設設備の担当箇所、清掃担当箇所を見直す必要がある。 ・疾病等の予防と管理の徹底を継続して行っていく。
	心身の健康の保持増進に努める。	教育相談活動の充実を図り、スクールカウンセラー等を活用して生徒の精神面の健康の保持に努める。	4	
	健康で安全な学校環境の整備に努める。	施設設備の安全点検・管理の徹底を図り、事故や災害が発生した場合には適切な応急処置や安全処置ができるよう学校安全の推進を図る。	4	
		防災についての意識を高め、状況に応じた安全確保ができる態度を身につけさせる。	4	
		環境美化意識を高め、校舎内外の清掃に努める。	4	
図書部	利用しやすい図書館を目指す。	利用者が閲覧しやすい環境を整備し、授業での利用を促していく。	4	・図書館利用者数と貸し出し冊数を増やす。 ・図書委員会活動の活発化と自主的な運営を目指す。
		DVD 鑑賞コーナーやブラウジングコーナーを整備して、校内の読書交流スペースを設ける。	4	
	本の貸し出し冊数を増やす。	図書便りを教室掲示に加え、Classi で配信することにより、貸し出し率の向上を目指す。	4	
	選書の充実を図る。	生徒の読書傾向を加味しながら、幅広い分野からの選書に努める。	4	
		授業で扱うトピックに合わせた選書や、小論文対策など進路関係参考書とジュニア新書の充実を図る。	4	
	図書館主催の行事を行う。	生徒参加の季節行事等、図書館からの積極的な発信に努め、図書委員会活動を活性化する。	4	

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
特活部	ホームルーム活動や学校行事を通して、協働の精神を養う。	HR 活動や委員会活動、学校行事等を通して自立心や協調性を醸成する。生徒が主体となった企画・運営が実現できるように指導する。	4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・野球応援で熱中症となる生徒が多数出て、重傷者もいた。来年度は応援の形態について熟慮する必要がある。 ・蒼夢祭と体育祭の開催年について方針を決める必要がある。克己踏破会が今後数年間通常コースでできないことも鑑みて計画する必要がある。 ・地域のボランティア参加は JRC の参加のみにとどまっておろ、一般生徒の参加も促す方向にする必要がある。
	部活動を含む各種課外活動への積極的な参加を促す。	各種課外活動において生徒の自主的・自発的な活動ができるよう適切な指導・援助を行う。	5		
		生徒が他者と協働し主体的に課題を解決する態度を養う。また、部活動については地域移行に向けた準備を進め、研究会や情報交換会などを実施する。	3		
	様々な体験活動を通して公共の精神を養う	地域のボランティア等に対しての積極的な参加を促し、自然体験、社会体験等の体験活動を通して、自主性や社会性を高め、社会貢献及び福祉活動等への関心が高まるように指導する。	3		
渉外部	P T A 活動全般の活性化と充実を図る。	学校諸行事および P T A 活動に対し、役員だけでなく、広く会員が参加できるよう企画し、会員相互の親睦を深める。	4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A や同窓会との連携を深め、 P T A 活動に多くの会員が参加できるようにする。 ・ 各種通知を通知文配付と classi 配信のハイブリッドにより、周知の徹底を図る。
		本部役員と各専門委員との連携を図り、学校行事が円滑に進むように努める。	4		
		会員への連絡の周知度を高めるとともに、学校からの通知が会員に届くように進める。	4		
	同窓会活動の充実を図る。	同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化を図り、同窓生の連帯を深める。	4		
1 学年	基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成を図る。	学年集会に加え、日常での生活指導を通して服装、挨拶、言葉遣い、時間の遵守、規則・期限の遵守等の指導を徹底し、規範意識を高める。	4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・検定・資格の取得に向けた指導があまく、取得者が少なかった。 ・教員間の意思疎通は良かった。 ・物価高騰により、修学旅行に行けるところが限られている。沖縄・北海道はアンケートから除くべき。 ・基礎学力の向上にもう一工夫が必要。
		もりすけや ICT を活用させ、必要な情報の収集やスケジュール管理を自分で行い、自己管理能力のある生徒を育成する。	4		
	前向きに学習する姿勢、挑戦する気持ちを育て、基礎学力の定着を図る。	中学校の復習を含めた基礎学力の向上を図り、高校での授業理解につなげる。また、月例テストや自学ノート、課外などで、前向きに学習して進路実現に向けて努力する姿勢を育てる。	4		
		英検、漢検、数検やニュース検定等、様々な資格取得への挑戦を促し、合格を目指して学ぶ達成感を得て自信や自己肯定感を持たせる。	4		
	進路意識を高め進路の方向性の明確化を図る。	2 年生でのコース選択に向け、進路に関する適切な情報を与えるとともに、生徒個々の希望・適性に応じた指導を行う。	4		
		探究や HR 活動を通して、長期的な展望に立った進路の意識づけを行うとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、自己のあるべき姿を考えさせる。	4		

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
2 学年	規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成を図る。	ルールや時間を守り、修学旅行を含む集団生活を通して自らの役割を自覚し全うできるよう指導する。問題行動に対しては家庭との連絡を密にし適切に対応する。	5	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻常習の一部生徒の遅刻数・欠課数改善を図りたい。 生徒指導等に関しては、ほとんどの生徒に成果が出ている。今後は、そうでない限られた一部生徒への対応が課題である。 進路実現に向けて、生徒には早めの行動を促していきたい。 総合型・指定校での進学に関しては積極的に複数回の OC 参加を、就職に関しては今年度からの 2 社見学制度などを利用し、多くを見て、体験することを勧めていきたい。
		欠席・遅刻・早退を減らすために、生活習慣の確立と規律正しく生活することの大切さを理解させる。	3		
		もりすけや ICT を活用させ、必要な情報の収集やスケジュール管理を自分でやり、自己管理能力を持ち、希望する進路の達成ができるよう先を見て行動できる力を養う。	4		
	前向きに学習する姿勢、挑戦する気持ちを育て、基礎学力の定着を図る。	通常授業や月例テスト・長期休業中課題などで、基礎学力の向上を図り、家庭学習や自主的な学習の習慣を身に付けることで基礎学力の定着に繋げて行く。	4		
		文科系や理数系は課外授業の活用、自宅学習の助言・教材提供を積極的に行い、学習に対する授業での意識づけによって、一般入試にもチャレンジできるような学力をつけることを目指す。	4		
		資格試験へのチャレンジを促す。資格取得を達成させることで、生徒自身の努力に対する自信を付けさせ、学習を含め何事にも前向きに挑戦する姿勢を養う。	3		
	進路学習を探究活動によって深め、進路実現への一歩とする。	総合的な探究の時間における活動を通じて、目指す進路や夢の実現、その先の社会貢献についての理解を深めさせる。自己の考えを主張・表現・発表できるといった社会で必要とされる力を身につけさせる。	5		
後期には面接ノート作成といった進路に関する内容を開始、この時期を実質的な入試・入社試験のスタート段階とし、進路実現に向けて行動する意識を高めさせる。		4			
3 学年	自主的に行動し、進路希望の実現を図る。	個々の生徒の進路希望に加え、その個性や適性を的確に把握した上で、本人・保護者・担任の三者で十分にコミュニケーションをとり、情報を共有する。それに基づき個々の進路実現のため HR 活動、学年集会、ガイダンスなどで自主的に活動できるよう指導を行う。	5	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 先を見据えて行動する力が足りない生徒が多く、再三指導したにもかかわらず期限ぎりぎりでも出願する生徒が多い。またそれが総合型不合格の理由とも考えられる。出願書類作成の校内ベ切を担任レベルで設けた方がよい。 進学者への夏休み志望理由書練習、面接練習が、出願前の書類作成や面接指導に繋がらなかった。効率的な指導法を検討したい。 月例テストの合格率を上げたい。 遅刻削減に注力したが、欠席早退削減も目指したい。 進路指導を学年だけでなく全体で取り組んでもよいのではないかな。
		もりすけや ICT を活用し、必要な情報の収集やスケジュール管理を自分でやり、自己管理能力を持ち、自らを律して期限を見据えて行動する力を養う。	3		
		総合的な探究の時間等で、進路別学習の実施および面接練習指導の充実を図る。	5		
		進路実現の一助となる資格・検定を取得させるための環境を設け、積極的な受験を促していく。	3		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	巡回指導、登校指導、授業や学校生活において、生徒への日々の声掛けを継続的に行うことで、生徒とのコミュニケーションを密にして信頼関係を築く。	4		
		HR や学年集会、学年だより等を通じて、ルールやマナーを守ることの意義と、誠実・素直でいることの大切さを伝える。	5		
		欠席・遅刻・早退を減らすために、基本的な生活習慣の確立が卒業後の人生や、進路実現に結びついていくことを自覚できるよう折に触れて話をする。	4		
	学力向上、挑戦する気持ちの育成を図る。	授業や月例テスト・長期休業中課題などで、基礎学力の向上を図り、家庭学習や自主的な学習を継続させる。	3		
		資格取得、入試などで諦めず挑戦する気持ちを育成し、目標を持って取り組む姿勢を身につけさせる。	4		
		学校行事では協調性をもってお互いの意見を尊重しあい、充実した高校生活に結び付ける。	4		

※ 評価規準： 5：非常によくできた、4：よくできた、3：普通、2：あまりよくできなかった、1：できなかった